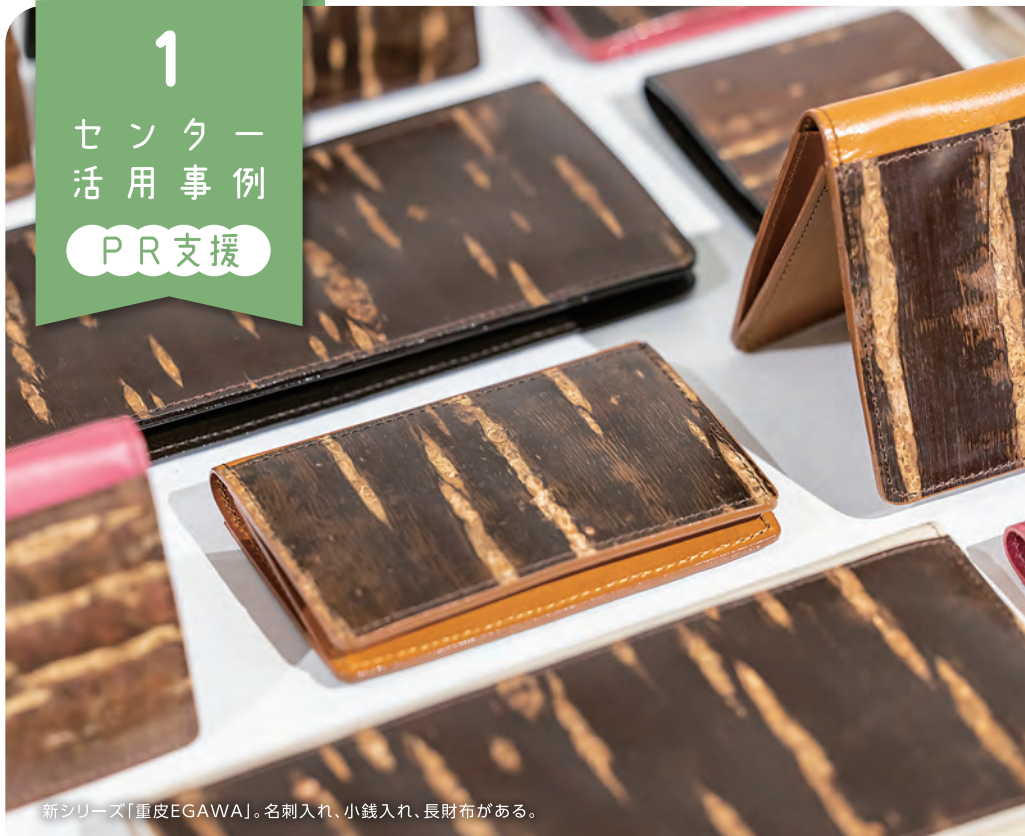


1

センター  
活用事例

PR支援



新シリーズ「重皮EGAWA」。名刺入れ、小銭入れ、長財布がある。



名工の作品も展示。若手の工芸士が勉強のため訪れる。



2016年にリニューアルした本店。本店ならではの限定品コーナーも。

## 時代に合わせ、 樺細工に新しい価値を

### 株式会社藤木伝四郎商店

〒014-0315 秋田県仙北市角館町下新町45 TEL.0187-54-1151 FAX.0187-54-1154  
<http://denshiro.jp/>



「日常に樺細工を  
取り入れて  
楽しんでほしい」と  
三沢さん

#### 変わることで、伝統を守る

今年創業170周年を迎える藤木伝四郎商店は、自社ブランド“伝四郎”の構築や海外への発信などを戦略的に推進し、常に伝統工芸に新しい風を吹き込んできた。先代の藤木浩一氏が急逝後、2018年に代表取締役役に就任した妹の三沢知子さんは、“皮と向き合う作り手の思いを、使い手に伝えるのが自分の役割”と、職人とのコミュニケーションに時間をかけながら足元を固めてきたという。「原点に立ち返り樺細工を勉強してみて、身近すぎて気づかなかった魅力や可能性に気づき、この技術を伝えていきたいとあらためて思いました。時代の変化を捉え、昔ながらのものとバランスをとりながら挑戦を続けることが、職人の技術やモチベーションの向上につながり、結果として工法と産地を守ることにもなると考えています」。異業種や他の伝統工芸との連携にも取り組み、現代の生活にもなじむ樺細工を提案している“伝四郎”は、2020年11月「重皮」シリーズを新たにリリースした。

#### 次のステージに向かって

「美しさと使いやすさを兼ね備えた自信作ができましたので、その“伝え方”について活性化センターにアドバイスをいただきながら、プレスリリースを行いました。新聞の取材を受けるなど、その効果を実感しています」。「重皮」は廃番になっていた商品を、信頼するデザイナーとの協業でブラッシュアップして完成させた。代表に就任して2年、ようやく軌道にのってきた今、廃番商品の見直しや新商品開発など、やりたいことだらけ、と三沢さんは話す。「勉強のため、と若手職人が伝統工芸士の作品を見に訪れるたび、未来への希望を感じ、自身も刺激を受けています。先代までが築き上げた礎に、次のステージに向けて自分なりの色を加えていきたいです。樺細工は触れるたびに光沢を増し美しく変化し、修理も承っていますので長くご愛用いただけます。より多くの方に、愛着を持って育てていただけるように、新たな使い手に向けても樺細工の魅力を発信していきたいと思っています」。

活用事例

### 産業デザインに関する助言

産業デザイン、製品開発、マーケティング等における専門的な助言や、デザイナーとのマッチング、コーディネートを支援します。

お問い合わせ 知財・デザイン支援課 TEL.018-860-5614